

力塾の考え方

2021年から新しい大学入試(大学入学共通テスト)が始まり、小中高校の教育のなかで、**主体性(自らが意欲的に学ぶ態度)、探究活動力(実体験、課題を発見し解決する力、論理的に思考し表現する力、多様な人々と協働する力など)、国際活動力(英語力、グローバルな視野など)**などが重視されるようになってきました。ペーパーテストの得点の偏差値で学力が測られた方々は、聞き慣れない言葉に戸惑っておられることと存じます。

力塾では、近年の大学入試改革に対応し、主体性をもって学びを深め、新時代に必要とされる学力を育み、志望大学への進学をサポートします。このような学習活動は、これまでのように「受験の年」といった比較的短期間の対策ではなく、**少しでも早く活動を始め、長期にじっくりと学ぶこと**をお勧めします。**中高校での探究活動の発展は、小学校時代の学び方にある**といっても過言ではないと考えています。

教育改革の背景と方向性

グローバル化や情報化が進展する社会では、多様な主体が早いスピードで相互に影響し合い、先を見通すことがますます難しくなる。子供たちが将来就くことになる職業の在り方も、技術革新等により大きく変化すると予測されている。子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就く、今後10年~20年程度で半数近くの仕事が自動化されるなどの予測がある。また、2045年には人工知能AIが人類を越える「シンギュラリティ」に到達するという指摘もある。